

二〇二三年二月二十六日

神輿蔵ひたと閉ざされ梅開く

はく子

囀りにすれ違ひたる笑顔かな

むべ

浮び来る鯉の大口水温む

凡士

僧総出大涅槃図の掛りけり

うつぎ

雪深き峡の駅舎の灯の淡し

よう子

キヤタピラの轍の跡にももの芽出づ

こすもす

薄氷の朝日をはじく汀かな

わかば

畦道を塗りはじめけり犬ふぐり

こすもす

雄鶏のつつくにまかせ落椿

素秀

春の風邪机の上のうす埃

愛正

梅東風や一つ傾ぎし六地藏

なつき

梟もけふは地に降り涅槃変

うつぎ

薄氷の中に蠢くものの影

わかば

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二三年二月二十七日

学僧の新説をかし涅槃絵図

うつぎ

青空を見よと指さす松の芯

むべ

赤子抱きお礼参りの梅の寺

よう子

山笑ふ鑿音高き石切り場

凡士

雨水なる菜園通ひ日課とす

かかし